IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

2015. 3 No.462

発行者―理事長・学長　小川 彰

主な内容

連　載
「当院認定看護師の紹介 No.12」

トピックス
岩手県、岩手県医療局、岩手県国保連と奨学金による養成医師の配置調整に係る協定を締結しました

フリーページ
すこやかスポット医学講座 No.53
「構造的心疾患(Structural Heart Disease：SHD)への挑戦」

陸前高田の奇跡の一本松
（写真提供：日本産婦人科腫瘍学会学術講演会様）

Iwate Medical University

連載

当院認定看護師の紹介 No.12
― 看 護 部 ―

平成９年に県内初の認定看護師が当院から誕生して以来、毎年、教育課程に２～３名を受講させていただき、現在 15 分野 28 名の認定看護師が活躍しています。さらに、専門看護師も２分野３名が誕生しました。自部署の看護の質向上はもちろん、分野に特化した知識・技術を他部署にも出向き実践・指導・相談に応じることで、院内の看護レベルの底上げになっています。また、感染対策や褥瘡対策、緩和ケアなどの専任・専従の認定看護師の他にも、呼吸ケアサポートチーム（RST）や栄養サポートチーム（NST）の一員として、自部署での活動以外にも活躍する認定看護師が増え、チーム医療を推進するうえで重要な役割を担い診療報酬にもつなげることができております。さらに、平成 24 年には看護外来が開設され、外来患者さんやご家族の療養生活上の問題についてケアを提供し、QOL を高められるような支援を行っています。

今回は、認知症看護認定看護師及び糖尿病看護認定看護師について紹介します。

１．認知症看護認定看護師

中６階看護師　田村　美帆

≪認知症看護認定看護師の役割≫

認知症看護認定看護師の役割は、認知症の行動心理症状を悪化させる要因や誘因に働きかけ、症状を予防・緩和することや認知症の方にとって安心かつ安全な生活・療養環境を調整することが役割です。また、急性期病院は治療が優先されるため、認知症の方は環境の変化にとても脆弱であり認知症の症状で厄介とされる徘徊や暴言・暴力といった行動心理症状につながりやすくなります。環境の一部である私たち医療従事者が、認知症の方の生活の質・尊厳を保持したケアを行うことで行動心理症状の軽減につながります。そのため、認知症の正しい知識を普及させ、少しでも認知症の方の「その人らしい」生活に近づけるように働きかけていくことが、認知症看護認定看護師の役割です。

≪院内の活動≫

当院でも認知症患者が増加しています。認知症の正しい知識の啓発が必要であると実感しており、自部署や他部署での勉強会を行っています。さらに、患者さんや高齢者に多い嚥下障害についての学びも深められるように、摂食・嚥下障害看護認定看護師と連携して研修会を開催しています。講義内容は、主に認知症看護の基本について行い、受講者からは自己の看護の振り返りや関わり方の学びになったという声が聞かれています。また、当院には認知症疾患医療センター（以下センター）が設置されています。センターは、認知症における専門医療の提供、介護との連携の中核機関としての役割を担っており、医師の他には臨床心理士が患者さんやその家族の相談対応を主に行っています。今後、臨床心理士と連携し、少しでも家族の介護負担の軽減につながる援助を行うことを目的として、看護外来で「認知症の介護に関する相談」を月に１回行っていきたいと考えています。

現在、神経内科・老年科、形成外科の混合病棟で勤務していますが、日々のケアの中で患者さんに笑顔で声をかけ、一緒にいる時間を多くもつことで少しでも患者さんの気持ちを理解できるようにしています。そして、患者さんの観察・アセスメントの視点、ケアのポイントをスタッフに指導し、療養生活の安全確保に努めています。これらの活動により、スタッフが患者

さんに笑顔で接することや声かけ・見守り、環境整備など看護の質が高まっていると実感しています。

≪認知症施策推進５か年計画の活動や院外活動について≫

国の施策として「認知症施策推進５か年計画（オレンジプラン）」があります。これは、厚生労働省が中心に行っている事業で、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることが出来る社会の実現を目指しています。認知症看護認定看護師は県内に私１人ということもあり、その事業の一環として一般病院勤務の医療従事者を対象とした、認知症対応力向上研修の講師を務めさせて頂きました。一関と盛岡の会場で行いましたが、看護師だけではなく介護福祉士の方など多数の方に参加して頂き、どの施設でも認知症の方の対応に困難を感じていることを実感いたしました。今後も研修を継続して行い、県内の認知症対応力の向上につなげていきたいと思います。

その他には、岩手県看護協会や他病院で認知症の正しい知識や対応の仕方について講義をさせて頂いています。講義依頼は一関や大船渡からもあり、県内での認知症看護に対する関心の高さを感じています。

認知症看護認定看護師となり３年目を迎えますが、今後も認知症看護の質の向上に向けた院内外の活動を行っていきたいと思いますので、ご指導をよろしくお願いします。

２．糖尿病看護認定看護師

中８階看護師　菊池　美千代

≪糖尿病看護認定看護師の役割≫

糖尿病は発症すると治癒することはなく、放置や血糖コントロールの不良による神経障害、網膜症、腎症などの合併症を引き起こし、更に脳梗塞や心血管疾患、足病変、歯周病なども発症します。これらの合併症は患者さんの QOL を低下させるだけではなく、医療経済的にも大きな社会的負担となります。

糖尿病看護認定看護師は、このような糖尿病の発症予防から合併症を防ぎ、できるだけ QOL を低下させないように援助していくことが主な役割になっています。この際に大事なことは、患者さんを一人の生活者として捉えることです。そして、生涯を糖尿病とともに生きていくために、セルフケア確立へ向けた支援が大切になります。患者さんは、糖尿病を発症して間もない方から、数十年経過している方まで様々です。また、背景も様々であり価値観も異なり、ライフサイクルのどのステージにいるのかを把握したうえで支援を行う必要がありますので、医師と看護師、栄養士、薬剤師など多職種と連携をとり、一人ひとりの患者さんに合った指導を行っています。

病棟で私は、コーディネーターの役割と患者さんの代弁者としての役割を担っています。さらに、最新情報の提供や日常生活の指導をするための糖尿病教室の企画・運営を行っています。また、スタッフが困った時には、支援方法やフットケアの実践など、タイムリーに指導ができるように心がけています。患者さんの指導においては、患者さんの自己管理能力を高め、自らが療養生活を調整できるようにサポートしています。

≪院内外の活動≫

平成 26 年度から看護部では看護の質向上を目指し、より専門的知識・技術の高い看護師を育成する「実践指導者ナース認定制度」を開始しました。この制度は、専門看護師・認定看護師による研修を修了し、認

定試験を受けて認定資格を与えられる５年更新のシステムになっています。私は、糖尿病看護の知識を習得し、患者さんに合った療養指導の実践能力を身に付け、糖尿病看護の質向上に貢献できる人材の育成を目的とし、「糖尿病看護コース」を慢性疾患専門看護師、日本糖尿病療養指導士とともに立ち上げ、研修を企画・運営しています。医師、栄養士、薬剤師、理学療法士の方々の協力をいただき、今までに研修を計６回開催しました。18 名の看護師が受講し、今後、認定試験を受ける予定になっています。初の糖尿病看護コースの実践指導者ナースの誕生を心待ちにしています。この他、金曜日の午後には、看護外来で患者さんの療養生活の相談やインスリン療法による血糖パターンマネジメントの指導、フットケアを行っています。

院外では、日本糖尿病教育・看護学会ネットワーク委員会東北ブロックから依頼を受けてファシリテーターを行っています。また、いわて糖尿病療養指導士会や他院から依頼を受けて看護師研修会や勉強会の講師を行っています。

今後は、糖尿病看護認定看護師の役割について周知を図りながら、患者さんの入院時から退院後も見据えた療養生活の指導ができるような看護師を育成していきたいと思います。

新任教授の紹介

微生物学講座感染症学・免疫学分野

村木　靖（むらき　やすし）

昭和 37 年 10 月 16 日
神奈川県横須賀市生まれ

研究テーマ

・インフルエンザウイルスの増殖機構と病原性の解析

主な著書論文

・C 型インフルエンザウイルスのリバース・ジェネティクスの確立
（J Virol, 81: 8766-73, 2007）
・スプライシングを制御する C 型インフルエンザウイルス NS1 蛋白の機能解析
(J Virol, 84: 1957-66, 2010)
・C 型インフルエンザウイルスの増殖における CM2 蛋白の役割
（J Virol, 85: 1322-9, 2011）
・アデノウイルスベクターを用いた実験的急性肺障害の治療
（Critical Care Med, 42: e716-24, 2014）

趣味

スポーツ観戦（グルージャ盛岡、ツエーゲン金沢、モンテディオ山形、横浜 DeNA ベイスターズ）、読書（藤沢周平、向田邦子）、音楽鑑賞（ピアノ曲、さだまさし）、映画鑑賞（山田洋次監督作品）

教職員への自己ＰＲ

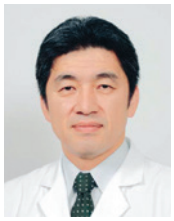
基礎ウイルス学の研究を始めて 20 余年が過ぎました。ウイルスが創り出す美しい世界に魅了され続けて今日に至ります。組換えウイルスを作製しその増殖機構を解析しています。得られた成果がワクチンや抗ウイルス薬の開発に繋がることを期待しています。当講座のスタッフと共に、医学部臨床講座や歯、薬学部の先生方とも交流させていただき、本学の研究と教育活動に貢献できるよう尽力いたします。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 62 年	山形大学医学部医学科 卒業
	東京都立墨東病院 内科（臨床研修医）
平成元年	筑波大学臨床医学系 血液内科
平成 4 年	山形大学医学部細菌学講座
平成 10 年	英国・国立医学研究所ウイルス学部門（併任、～平成 12 年）
平成 21 年	金沢医科大学医学部微生物学講座
平成 26 年 8 月	現職

心臓血管外科学講座

猪飼　秋夫（いかい　あきお）



昭和 37 年 11 月 3 日
滋賀県守山市生まれ

研究テーマ

・先天性心疾患の外科治療並びに周術期管理の確立

主な著書論文

・兎グレンモデルにおける低酸素性肺動脈攣縮の消失
（J Thorac Cardio Surg 2004 May; 127（5）:1450-7.）
・霊長類の胎児人工心肺の予備的成績
（J Thorac Cardiovasc Surg. 2005 Jan; 129（1）:175-81）
・10kg 以下での心外導管 Fontan 手術の整合性
（J Thorac Cardiovasc Surg 2008;135:1145-1152 ）

趣味

ワカサギ釣り

教職員への自己ＰＲ

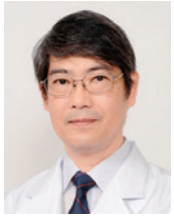
学生時代に一番興味があると思い込んだ先天性心疾患の外科治療を極めようと、望む所を転々としてまいりましたら、岩手医大にたどり着きました。盛岡に住んで丸 8 年になります。雪さえなければ、こんなに住みやすいところはないと思いつつ、雪が降った後の晴れ渡り澄み切った盛岡の朝が大好きです。岩手の自然を満喫しつつ、更なる良質な先天性心疾患の医療を提供できますよう精進させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

経歴

昭和 63 年	滋賀医科大学医学部　卒業
	京都大学心臓血管外科入局
平成 2 年	静岡県立こども病院心臓血管外科
	京都大学心臓血管外科
平成 13 年	USCF　Stanford 大学　リサーチフェロー
	Stanford 大学小児心臓外科 クリニカルフェロー
平成 16 年	静岡県立こども病院心臓血管外科
平成 19 年	岩手医科大学心臓血管外科学講座　講師
平成 22 年	同　准教授
平成 27 年 1 月	現職

整形外科学講座

一戸　貞文（いちのへ さだふみ）



昭和 30 年 7 月 24 日
岩手県奥州市生まれ

研究テーマ

関節鏡学的診断および治療、膝関節機能再建（人工関節、靭帯再建）、コンピュータ支援 3 次元術前計画、軟骨細胞移植の臨床応用、小児膝疾患の治療、スポーツ整形外科

主な著書論文

・前十字靭帯再建術後の半月板損傷
（Journal of Orthopaedic Surgery 2000; 8：51-6.）
・TomoFix を用いた opening wedge 高位脛骨骨切り術後のアライメントの検討
（日本関節病学会誌 . 2011;30 (3):340.）
・膝の変形および障害に対する装具療法
（和田郁雄編　MB Medical Rehabilitation. 2015,179.）

趣味

水泳、スクーバダイビング、スキー

教職員への自己ＰＲ

人間は二足歩行により、進化してきたと考えられています。歩行を支えるのは荷重関節である股関節、膝関節、足関節と足部であります。この中で可動域が広く歩行の要となる膝関節は様々の外傷、疾患により機能が損なわれます。私は整形外科医ですので手術を中心として高齢者には歩ける喜び、若年者にはスポーツが再びできる喜びを再び味わっていただくために、可能な限り膝関節機能の完全な復活をめざしての研究・治療に取り組みますので、よろしくお願いいたします。

経歴

昭和 56 年	岩手医科大学医学部卒業
昭和 60 年	岩手医科大学大学院医学研究科修了
昭和 61 年	岩手県立江刺病院整形外科長
平成元年	岩手医科大学整形外科学講座助手
平成 4 年	同講師
平成 15 年	同助教授
平成 19 年	同准教授
平成 26 年	岩手医科大学付属花巻温泉病院副院長
平成 27 年 1 月	現職

腫瘍内科学科

伊藤　薫樹（いとう　しげき）

昭和 41 年 1 月 6 日
東京都生まれ

研究テーマ

・造血器悪性腫瘍の病態解明と新規治療法の確立
・HTLV-1 感染症克服事業（実態調査、発症リスクの同定と予防法の確立）

主な著書論文

・フレイル患者における抗骨髄腫薬の用量調節の有効性
（Open J Hematol 2014; 5:5-9）
・ATL 細胞に対するデグエリンの抗腫瘍効果
（Leuk Res 2010; 34:352-357）
・Mad2 の造血機能解析（Blood 2007; 109:1923-1930）

趣味

スポーツ観戦（主にサッカーや NFL）、読書（主に現代思想や西洋哲学史）

教職員への自己ＰＲ

これまで血液内科学とくに造血器悪性腫瘍の教育・診療・研究に携わって参りました。今後は造血器腫瘍のみならず広く臨床腫瘍学の教育をはじめ、特にがん薬物療法専門医などのがん専門医療人の養成のための教育の推進と患者満足度の高いがん医療を推進するための化学療法のチーム医療の充実、安全な化学療法の実施に積極的に取り組んで参りたいと考えております。母校の発展に全力を注いで参る所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

経歴

平成 3 年	岩手医科大学医学部卒業
	岩手医科大学第三内科入局
平成 13 年	医学博士
平成 15 年	岩手医科大学血液内科助手
平成 16 年	米国インディアナ大学客員研究員
平成 20 年	岩手医科大学内科学講座血液・腫瘍内科分野講師
平成 21 年	同　附属病院腫瘍センター副センター長
平成 22 年	同　内科学講座血液・腫瘍内科分野准教授
平成 27 年 1 月	現職

病理学講座機能病態学分野

佐藤　孝（さとう　たかし）

昭和 35 年 2 月 18 日
岩手県江刺市（現奥州市）生まれ

研究テーマ

・造血器腫瘍 (悪性リンパ腫・白血病) の病理
・脾臓の構造と機能

主な著書論文

・ホジキンリンパ腫を合併した PTGC
（J Clin Exp Hematol 2014; 54: 205-209）
・脾臓の構造と発生
（脾臓—基礎と臨床—（沖永 功太編）ヘルス出版 2011; 2-13）
・ヒト胎児脾の白脾髄 , 周辺帯の組織発生
（Cell Tissue Res 2009; 336: 287-297）

趣味

航空無線、演劇鑑賞、マジック

教職員への自己ＰＲ

岩手医大に勤務すること 30 年余り、現在は矢巾と内丸のキャンパスを行き来しながらの毎日です。この間病理診断に軸足を置きながら、研究と学生教育を行ってきました。近年の分子生物学の発展に伴い、病理診断は単なる診断からその後の分子標的治療への架け橋となる重要な業務になっています。臨床との連携を図りながら診断精度の向上に努めていくとともに、後進病理医の育成にも努力していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 59 年	福島県立医科大学卒
	岩手医科大学臨床病理助手
昭和 61 年	岩手医科大学病理学第二講座助手
平成 5 年	ドイツゲッチンゲン大学留学
平成 7 年	岩手医科大学病理学第二講座講師
平成 12 年	同助教授
平成 20 年	同病理学講座病理病態学分野准教授
平成 26 年	同病理学講座機能病態学分野准教授
平成 27 年 1 月	現職

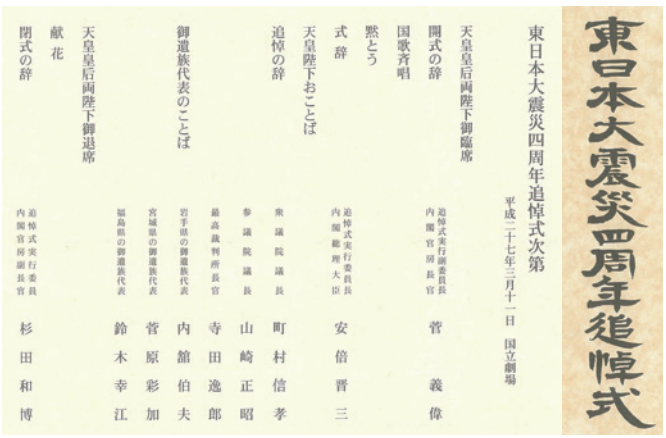
寄稿

東日本大震災四周年追悼式

学長　小川　彰

東日本大震災発災から四周年を迎えた 3 月 11 日（水）、約 1200 人の出席のもと政府主催の東日本大震災四周年追悼式が国立劇場を会場に行われました。本学からは、「学長」として私、「いわて東北メディカルメガバンク機構長」として祖父江副学長に、安倍内閣総理大臣から出席要請があり、謹んで出席して参りました。私は平成 24 年 3 月 11 日に開催された一周年追悼式以来 2 回目の出席になりました。

午後 2 時 46 分に 1 分間の黙祷が行われ、天皇陛下がお言葉で震災によって亡くなった人々とその遺族に対し哀悼の意を表されました。140 ヶ国の大使等も参列し、出席者全員の献花が行われ、荘厳な中、鎮魂の祈りを捧げました。岩手、宮城、福島の被災地をはじめとする全国各地の追悼会場とをつないで行われ、日本中が鎮魂の祈りを捧げました。


東日本大震災四周年追悼式次第
平成二十七年三月十一日　国立劇場
天皇皇后両陛下御臨席
開式の辞　追悼式実行副委員長 内閣官房副長官　菅　義偉
国歌斉唱
黙とう
式辞　追悼式実行委員長 内閣総理大臣　安倍晋三
天皇陛下おことば
追悼の辞　衆議院議長　町村信孝
参議院議長　山崎正昭
最高裁判所長官　寺田逸郎
岩手県の御遺族代表　内舘伯夫
宮城県の御遺族代表　菅原彩加
福島県の御遺族代表　鈴木幸江
御遺族代表のことば
献花
天皇皇后両陛下御退席
閉式の辞　追悼式実行委員 内閣官房副長官　杉田和博
東日本大震災四周年追悼式

奨学金による養成医師の配置調整に係る協定を締結しました

２月６日（金）、エスポワールいわてにて、岩手県、岩手県医療局、岩手県国保連と奨学金による養成医師の配置調整に係る協定を締結しました。

本協定の締結により、奨学金による養成医師の配置について、調整会議を平成27年度に設置することとなります。これにより、医師の希望や、医療機関での医師の需要を調整することが可能となり、医師のキャリアアップ形成も視野に入れながら医療機関の医師不足を解消することが期待されます。

平成20年度に利用した学生が平成27年度に初期研修を終え、平成28年度から本協定に基づき岩手県内の医療機関に配置される予定です。

（左から：佐々木岩手県医療局長、小川理事長、達増岩手県知事、谷藤岩手県国保連理事長）

高校生キャンサーセミナーが行われました

２月21日（土）、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センターにおいて、高校生キャンサーセミナーが行われました。

このセミナーは、「がん」についての基本的教育（がんの発生、がんの治療、がん治療支援、がん予防）を行い、疾患への関心を高め、予防行動や将来のがん検診受診を促すことを期待し行われたもので、県内の高校生82名が参加しました。

午前は、本学講師による基礎講義の他、順天堂大学大学院分子病理病態学分野 樋野 興夫 教授による講演も行われ、がんの治療や予防に関する知識を深めました。

午後は、「内視鏡手術（エネルギーデバイス）」「消化管内視鏡、超音波検査」「全身麻酔シミュレータ」「病理検査実習」「抗がん剤調剤実習」の５つの体験セミナーが行われ、実際にがん手術の訓練にも活用される機械などを体験しました。

全てのセミナーが終わると、木村 祐輔 教授（緩和医療学科）から高校生一人ひとりに修了証が手渡されました。

ワークショップ

内視鏡手術体験

全身麻酔シミュレータ体験

エネルギーデバイス体験

抗がん剤調剤実習

修了式

教職員レター No.65

「和みの時間」

歯科衛生部 歯科衛生士　大坊　華央

日常生活の中でホッと一息心安らぐ和みの時間。皆様にとってはどのような時間でしょうか？私は茶道のお稽古の時間です。静寂な茶室で、炭の温もりと茶花や和菓子、掛け軸、茶道具等から四季折々の風情豊かな季節を感じ、心を込めてお抹茶を点て味わいながらゆったりと頂く、とても贅沢な時間です。

母の影響もあり、ずっとやってみたいと思っていた茶道を習い始めて２年が経ちました。まだまだ初心者ですが、お稽古を重ねる毎に新しい事を吸収出来る時間がとても新鮮で楽しみな時間となっています。

茶道は長い年月を経て受け継がれて来た日本を代表する伝統文化で、お抹茶を点てる点前作法の他、礼儀作法や立ち居振る舞い、服飾、日本各地の伝統工芸や菓子等、普段なかなか触れる事の少ない日本文化を総合的に深く学ぶ事が出来ます。点前作法一つ取っても茶道具や茶碗を清める一連の動作一つ一つに意味があり、日本人のおもてなしの心を肌で感じる事が出来ます。

私は少し一息付きたいと感じた時ふとお抹茶を飲みたくなりますが、お抹茶にはリラックス効果の他、免疫力を高めたり美肌やダイエット効果等様々な嬉しい効果もあるそうです。

現代社会はボタン一つで本格的なコーヒーやお茶が飲める便利な時代ですが、時にはゆったりと四季の花々を愛で美味しい和菓子をお抹茶と共に頂きながら日本の伝統文化に触れてみてはいかがでしょうか。これから雪解けが進み、春が訪れて綺麗な花々が咲き誇る季節となって行きます。気持ちも新たに、皆様も和みの時間をお過ごし下さい。

「二足の草鞋」

病院事務部 医務課 事務員　櫻井　雄介

皆さんは、何をして休日を過ごすのだろうか？買い物や旅行、趣味に時間を費やす方もいれば、自宅でのんびりと仕事の疲れを癒す方もいることだろう。

私の場合、“ 球日 ”となることがほとんどである。

11 歳からサッカーを始め、進学・就職を経て、現在は事務員として本学に勤務する傍ら、中学生にサッカーの指導を行っている。盛岡市内の中学校と岩手県中学選抜チームのコーチとして、週末はトレーニングや試合・大会等で県内外各地を飛び回る生活をこれまで毎週のように送ってきた。時には平日の出勤日よりも早く起床し、日が暮れるまでグランドに立ちっぱなしという日も少なくはない。

休日に静養するどころか、むしろ体が悲鳴を上げるのではないかと思われがちだが、好きだからこそこれまで続けて来られたと我ながら思う。

現在指導に当たっている子ども達は、来年に本県で開催される「2016 いわて国体」の中心選手がほとんどを占めるため、我々指導者にも熱が入る。昨年開催されたサッカーワールドカップ ブラジル大会では、日本代表チームは惨敗を喫したが、近い将来、自分が指導した選手が日の丸を背負ってプレーする日が来るのを想いながら、今週末もグランドに足を運ぶ。

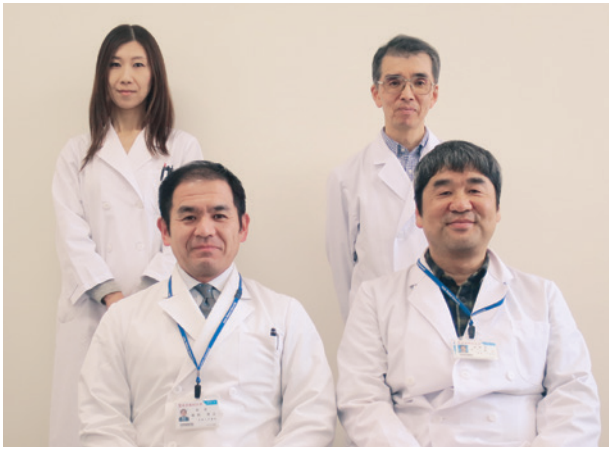
シリーズ 職場めぐり No.87

医療工学講座

医療工学講座は矢巾キャンパスの西研究棟３階にあります。昨年５月に服部教授が着任し、准教授１名、講師１名、助教１名の計４名の教員で歯学部第２、３学年の歯科理工学講義および実習を担当しています。また、歯科臨床との関連も深いことから臨床系科目での教育にも参画しています。

当講座の研究活動として、歯科材料の基礎的物性評価、生体材料の安全性評価、再生医療用足場材料の開発、耐食性に優れた金属材料の開発など、臨床にフィードバックできることを念頭に実践しております。近年、３Ｄプリンター技術が紹介され、医療にもそれら技術で製作された人工物が応用されるようになってきました。当講座においても金属粉末積層造形用の金属粉末開発など外部機関との共同で取り組みを開始したところです。学内共同研究ならびに大学院生の参加などお気軽にお声掛けください。

（講師　齋藤　設雄）



看護部（花巻温泉病院４階）

花巻４階病棟は、神経内科と整形外科の病棟で、神経難病と身障者１・２級の重度の肢体不自由の患者さんが70％を占めている特殊疾患入院施設管理加算病棟です。患者さんの多くはベッド上生活で食事、排泄、清潔面など全面的援助を必要としています。この様な患者さんが少しでも残存機能を活かして生活するためのリハビリテーションを行い、充実した療養生活が送れるようきめ細やかな看護に心がけています。

今年度は患者さんの思いに寄り添った看護実践を目標にユマニチュードという技法を学び、取り入れ「見る」「話す」「触れる」「立つ」という４つの柱を基に、障害を持っている患者さんを「個人」として尊重した関わりが持てるように心がけています。また、挨拶、身だしなみ、言葉使いなど社会人として節度ある行動をする為、「接遇・応対時のマナー３項目」を作成し、朝の仕事開始前に全員で唱和し、患者さんに笑顔で親切・丁寧な対応することを心がけています。

(主任看護師　仁手　由美子)

学　事　案　内

岩手医科大学　入学式

日　時：平成27年４月９日（木）午前10時～
場　所：岩手県民会館　大ホール

岩手医科大学医療専門学校 入学式

日　時：平成27年４月４日（土）午前10時～
場　所：歯学部４階　講堂

理事会報告

1月定例（1月26日開催）

1．任期満了に伴う医学部長の選任について

医学部長　小林　誠一郎（重任）

（任期　平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

2．教員の人事について

口腔医学講座　関連医学分野　教授　千葉　俊美

（現　内科学講座消化器内科消化管分野　准教授）

（発令年月日　平成27年4月1日付）

3．職員の人事について

看護部長　三浦　幸枝（現　副看護部長）

副看護部長　多田　育美（現　循環器5階　看護師長）

佐藤　悦子（現　看護部長室　看護師長）

（発令年月日　平成27年4月1日付）

4．緩和ケアセンターの整備並びに組織規程の一部改正について

診断から迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するため、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟等を有機的に統合する緩和ケアセンターを新設すること及びそれに伴う組織規程の一部改正について承認

（施行年月日　平成27年4月1日付）

5．岩手看護短期大学の移管に伴う基本合意書の締結について

岩手医科大学は2017年に創立120周年を迎えます

IWATE MEDICAL UNIVERSITY 120th since 1897

誠のあゆみ、
未来へつなぐ

創立120周年記念ロゴマーク・スローガン

《岩手医科大学報編集委員》

小川　彰　菊池　初子
影山　雄太　江刺家和恵
松政　正俊　佐々木さき子
齋野　朝幸　米澤　裕司
小山　薫　佐々木忠司
藤本　康之　畠山　正充
佐藤　仁　大須賀志穂
成田　欣弥　武藤千恵子
山尾　寿子　野里三津子

編集後記

毎年、桜の開花予想や花粉飛散情報を見るたびに春の訪れを感じつつ、盛岡の3月はまだまだ朝晩の寒さが厳しく、名ばかりの春を感じる今日この頃です。卒業や退職、異動など別れと出会いの季節となりました。連載で掲載している当院認定看護師の紹介は本号で12回目となり、ますますの活躍が期待されているところであります。このような情報発信は4月に迎えるフレッシュな仲間たちにも良い刺激となることと思います。今後も大学報を通して、さまざまな情報を提供していきたいと考えています。

盛岡の桜開花予想日は4月17日とのこと。桜の開花と新たな出会いを待ち望みながら気持ちも新たに春と新職員を迎えましょう。

（編集委員　江刺家　和恵）

岩手医科大学報　第462号

発行年月日　平成27年3月31日
発行者　学長　小川　彰
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19−1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

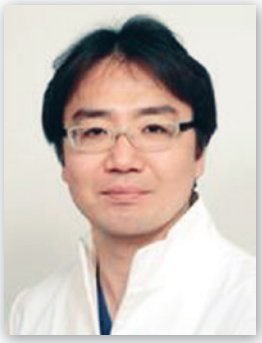
印　刷　河北印刷株式会社
盛岡市本町通2−8−7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

No. 53

スポット医学講座

内科学講座循環器内科分野　助教　阪本　亮平



構造的心疾患（Structural Heart Disease：SHD）への挑戦
── 新しい大動脈弁治療のお話し ──

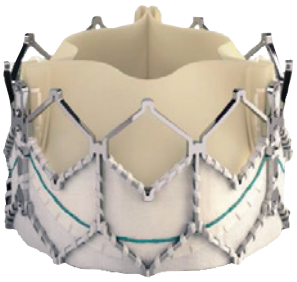
「構造的心疾患（Structural Heart Disease：SHD）」

耳慣れない単語ですが、ここ１～２年の循環器診療のトピックです。心房中隔欠損症（ASD）や大動脈弁膜症（AS）、僧帽弁膜症をカテーテル治療で治療しよう！という潮流が国内を席巻しており、当院でも心房中隔閉鎖術導入に続き、2013年12月から経カテーテル的大動脈弁留置術（Transcatheter Aortic Valve Implantation：TAVI）に取り組んでいます。

この治療の対象となる大動脈弁狭窄症は、症状が出現してからの生命予後が極めて不良であり、大動脈弁置換術（AVR）の絶対適応とされていますが、近年の高齢化社会や疾患構造の複雑化を反映して、手術困難な患者さんの診療機会が激増しています。ASに対する内科的治療の成績は極めて不良であり、「座して死を待つばかり」というのがこれまでの常識でした。

TAVIは人工心肺を使用することなく、大腿動脈または心尖部経由でカテーテルを用いて人工弁を留置する手法で、AVRに比べて侵襲が極めて小さい事が最大のメリットです。全身麻酔を要しますが、基本的には手術室で覚醒・抜管し、早い方では当日夕方から経口摂取を再開し、翌朝には自力歩行が可能となります。まさしく、これまでの常識を覆す画期的な治療です。

今後導入が予想される僧帽弁閉鎖不全症のカテーテル治療や左心耳閉鎖術への参入を目指しつつ、TAVIの経験を重ねております。治療を諦めていた患者さんがございましたら、是非１度ご相談ください。



TAVIで使用する人工弁（SAPIEN XT）

心房中隔閉鎖用デバイス
（AMPLATZERTM Septal Occluder）